

栄光園だより  
第95号

2014年4月30日発行  
発行  
社会福祉法人 栄光園  
別府市南荘園町3組  
〒874-0904 電話 (23) 2827  
振込口座 01930-2-20748  
編集 広報誌編集委員会  
印刷 大野印刷株式会社  
別府市青山1-7 電話 (21) 0505

# 児童養護施設の責任

光の子どもの家 理事長 菅原 哲男



子どもたちは児童養護施設に、絶望しきって、泣くことさえ出来なくなつてやつてくる。どうしてだろう？ 考えてみよう。

成人の男女が決意してともに暮らし始める。そして子どもが生まれる。子どもが生まれることで家族としての必要条件是整うのである。生まれできた子どもは無力に近い状態である。誰かが支えないと存在することが出来ない。泣いても誰もそばにいない。子どもは泣くことにさえ絶望するだろう。

子どもたちは児童養護施設に、絶望しきって、泣くことさえ出来なくなつてやつてくる。どうしてだろう？ 考えてみよう。

せす、捨てることだけ、逃げることを求めるようになる。

このような状態が、生まれてから児童養護施設にたどり着くまでの、その子どもたちの環境だったのである。

だから、児童養護施設に関わる大人は、何よりもその子に信頼されるように関わりを始めるなければならない。入所の時は、赤ちゃんが生まれてきたときのように、喜び祝い、出会えたことを喜ぶのである。

そして子どもたちは成長し、やがて18歳を迎える。

18歳という年は、ほとんどの子どもたちが進路を考える年である。進路に悩むと言うことは、自らの未来に心を砕くことなのである。

児童養護施設の子どもたちは、出

自の不条理な不幸に悲しみ、生まれたことを受け入れられずに苦しんできた。しかし、18歳という年は、未来を志向することを可能にする。児童養護施設の子どもたちは住む場所、する仕事、そして暮らしへの期待と不安の中にいるときでもある。それでも、彼らは出て行くのである。

その時、自らの未来への希望に満ちて、笑顔で、生まれてきたことを受け入れて児童養護施設から感謝しつつ出て行くことが出来るよう、それまでのすべての時間を、心を込めてその子のための利益につなげられるよう心を込めて関わっていくのである。

それが、児童養護施設に課せられた責任なのである。もし果たせない部分や全体があるなら、それ以後も関わりは続けなければならない。それが、児童養護施設に関わる者たちの人としてのありようなのでもある。

長い期間児童養護施設に関わってきた。最初に社会に出て行った子どもからもらった古い葉書がある。

「引越越し手伝ってくれてありがとう。今までお世話になりました。がんばって仕事します。タビダチの会で、生まれてきてよかったかって聞かれたけど、私の返事がよく聞こえなかったんじゃないかと思いきま



栄光園 … 春、桜の花びらで埋め尽される

した。私ね、生まれてきてよかったって思うよ。ここにきてよかったって心から思うよ。みんないい人たちでよかったよ。幸せだよ。本当に、本当にありがとうございます。また遊びに行きます。」

大切にしてている。この頃はみんなだ。が…。

(注) 「光の子どもの家」は埼玉県の児童養護施設で、菅原先生には4年前栄光園の職員研修で来訪され、指導いただいた。また、先生は8年間の施設の記録をもとにドキュメンタリー映画「隣る人」を2年前公開され、全国展開を続けており、子どもたちに寄り添い続ける大切さを今も説き続けている。

「幻によって自らを示し、夢によって彼に語る。」

民数記12章6節

青山保育所 小久保次郎

主の民はエジプトを出発し、自由と祝福の約束された地へと向かう途中に、砂漠を行きました。その数は男だけでも60万人もいたと聖書にあります。当然、食料も飲料水も底をついてきました。モーセに率いられた民の不満と怒りは、モーセへと向かいました。主なる神はマナを降らせ、イスラエルの民たちを飢えから救います。しかし、民はマナに飽きてくると、もつと美味しい食べ物を要求し始めます。この時、神は、うずらを集め、民に食べさせます。聖書は神学書ではありませんけれども、こういう人間の生臭い生の現実が色濃く描写されているところに実は本当の核心があります。イエス・キリストの十字架の前日に最後の晩餐が開かれます。パンと葡萄酒がキリストの体と血であるとイエスは弟子たちに教えられています。どれほど、食事が大切であるかを聖書は教えています。それは、

神の子イエスを食すること、その全存在を受け入れることにあります。この世の食べ物、どんなに美味しくても、またお腹がすいてきます。そして、毎回毎回同じ食事も飽きてきます。もつと、美味しいものを胃袋と脳は求め続けるのです。決してこの世の食べ物では永久に満足できないのです。イエス・キリストの言葉は、神を中心にした生き方をせよというシンブルな内容です。必要なものは神が備えてくださるということです。神、イエス・キリスト、聖霊と共に生きる生き方にこそ、永遠の満足が与えられます。私たちは、どう生きるかを問われ続けられていると同時に、私たち自身、どう生きるかを模索しています。いづれにせよ、決定権を常に握っておられるのは神のみです。神の導きによって私たちは今日も生きています。

# 児童養護施設

## あたたかい家 〜食育を中心とした養育〜

保育士 三重野 慶子

栄光園は小規模グループケアを開始し2年が経ちました。私はそのうちの一つ、キャサリンホームでホーム長をしています。現在、ホームには小学校高学年から高校生までの6名で生活をしており、将来に向け学ぶべきことが

多くあります。しかし、何でも職員任せな子ども、不器用な子ども、自信がなく臆病な子どもも多いです。そのため、まずは子どもたちが「一番興味のあること」は何かと話し合い、生活の中心にある「食事」を通して支援を行うことにしました。  
初めは食材への関心を持ってもらうため、野菜を育てました。しかし、高学年の子どもが多いこともあり、育てることに興味を持つ子どもは少なかつたのです。そのため、将来に必要なことは何かと考え、『食事のマナー』『基本的な調理ができること』ではないか



と支援の内容を見直しました。

食事は生活の重要な部分ですから、調理の工夫や盛り付け方、その都度、食卓の雰囲気を変えることで、子どもたちが自然と食に関心を持ち、調理にも取り組むようになりました。

職員と一緒に調理をする子どもは、材料の名前や切り方を覚えたり、共同作業ですら相手を思い丁寧な作業を心掛けるようにもなってきました。また、味覚がしつかりとしてきたことで、味を言葉で表現し、食感などにも敏感になり、加えて、調理の仕方にも関心を持つ子どもたちが増え、食卓の話題も豊富になりました。食事に関心を持つことは、自然と箸の持ち方やマナーの意識にも繋がります。調理の大変さを知り、手伝うことが増えたことも変化の一つだと思えます。

私たちホームの職員は、家とは子どもたちがホッとできる大切な居場所だと思っています。その中でも食卓は楽しい団欒の場であり、生活には欠かせないものだと思います。子どもと共に生活をする中で、躰のあり方、声掛けの工夫を改めて考えました。今は調理やマナーを中心に支援しておりますが、今後は食事を通してコミュニケーション能力の向上などにもつなげていけるよう支援を展開したいと思っています。自立して欲しい、自立して頂かなければという思いは強いのですが、家庭的な役割の中で、ぬくもりのある家作りを考え、どのように支援をしていくのか、課題はたくさんあります。生活の中で身に付けられることを可能な限りふやせるよう頑張りたいと思います。

なお、4月現在のホームの様子ですが、進級と共に一部の子どもや職員が他のホームに異動したことで、心なしか落ち着かない状況です。集合離散を繰り返してきた家族経験に似て、子どもたちの「寂しい」のセリフにも表れているように、彼らがいなくなった「穴」は大きいようです。そんな時こそ、これまで積み上げてきた食事を中心とした「あたたかい家」で子どもたちを包み込んでいきたいと思っています。

### 栄養士補定

栄養士 佐藤 朱美

キャサリンホームでは、「食に興味を持たずにはいられない」というような目で見て楽しめる盛り付けがなされて

おり、職員のこだわりがよく感じられます。そのような中で子どもたちも自然と食に関心がわき、調理に取り組み姿が見られます。職員にマンツーマンで教えてもらいながらの調理や、子ども同士で協力して行う調理、時には調理対決といった姿も見られますが、子ども自身が楽しみながら食にふれる機会があることは嬉しく思います。調理に取り組むことにより、作り手側の気持ちに分かり、食べる側としてもマナーを意識するようになったりと嬉しい連鎖が続いています。この連鎖が食に関することだけでなく、自立へ向けての連鎖へとつながるように取り組んでいきたいと思えます。



## 卒園生を送り出して

ウエストホーム 原田 康子

3月9日、栄光園ホールにて栄光園の子どもたち、職員、お世話になった先生方をお迎えして「卒園生を送る会」を行いました。今年、3人の青年が栄光園から社会へ巣立っていきました。今回卒園していった子どもたちは、

乳児院の頃から18年間、栄光園で過ごしてきました。彼らの18年間は、多くの仲間たちと楽しく過ごした思い出と、それぞれの生い立ちと向かい合った大変な思いが詰め込まれたものだったと思います。そんな中でも、素直にまっすぐに成長してくれた子どもたちに感謝する気持ちでいっぱいです。

これまでの2年間を振り返ってみると、一昨年ウエストホームで生活し始めた頃から卒園について話をしていたが、なかなか実感の伴わないものでした。しかし、昨年の4月高校3年生になって卒園まで1年という頃になつてやっと立ち立をしなければいけないという思いがわいてきたようです。特に、就職活動の際には、挫折感なども味わいながら、社会の厳しさを初めて実感し、社会に出ることに対する不安も抱いたと思います。それぞれの子どもたちが様々な経験を通して精神的に大きく成長してくれました。社会の方々に育て

ていただいた部分がとても大きく、社会資源の活用の有効性を実感いたしました。子どもたちを受け入れ、育ててくださった社会の方々へ感謝いたしました。



おります。

また、園の生活の中では、親子生活訓練棟で一人暮らしのシミュレーションをし、それぞれの子どもたちにどんなことを伝えていかなければいけないかを考えていきました。子どもたちが今後身につけていかなければいけないことがはっきりとわかり、その後の指導の方向性を考えていくことができました。

そして、本人たちと就職について具体的に話しをしたり、学校の先生方と連携を取りながら将来に向けて準備を進めていき、全員の就職を決めることが出来ました。今後は、彼らの頑張りを陰ながら応援していきたいと思っております。

これからも子どもたちが心身ともに健やかに育つていける養育環境を整え、社会に大きく羽ばたいていけるよう支援していきたいと思っております。しかしながら、子どもたちを社会に送り出していく際、社会経験を積ませていただくなど社会の方々のご支援がとても大切なものとなることを今回痛感いたしました。今後ともご協力をお願いいたします。

今回子どもたちを送り出し感じたことは、栄光園を巣立っていった子どもたちが気軽に帰って来られる場所、ゆつたりと過ごせる暖かな家を守っていかなければならないという思いでした。栄光園がそんな素敵な場所となるよう職員一同努力していきたいと考えております。どうぞご理解、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

## 乳児院

### ひな祭り

3月3日はひな祭り、女の子のイベントでした。

着物を着て髪をセットしているときは少し緊張していた子どもたちも仕上がると、いつも以上に「かわいいね」といわれるのでとてもうれしそう。

ひな人形の前の写真は「おひなさまと一緒に」と言って、楽しそうにポーズをとり可愛い顔を見せてくれました。



### 散歩／ラクテンチ

お天気の良い日に境川まで散歩に行きました！

川沿いの桜は満開で草花もたくさんさいており、チョウチョが飛んでいるのを見つけると「チョウチョ、だ〜マテ〜」とうれしそうに追いかけて春の自然に触れながら散歩を楽しみました。

お昼ご飯は園内の桜を見ながらお弁当を食べました。一緒にシートを敷き「おにぎりおいしいね」といつも以上にお代わりをしていました。

お昼からはラクテンチに行きました。到着し、人の多さに少し緊張していましたが子どもたちも、動いている遊具を見るなり「あれ何かな〜乗ろうね」と興奮して職員の手を引張り歩き出しました。メリーゴランドに乗ったり、ヤギのえさやりでは怖がることなくえさをあげたり、ペンギンが水に飛び込む姿や「ジャッポーン」と泳ぐ様子を見たりといつもとは違う経験をし、普段とは違った子どもたちの一面を見ることができました。



春のあたたかな日差しを浴び子どもたちの笑顔も満開に咲いた一日でした。



### 抱っこボランティア

はじめまして。

月に2回、栄光園にお邪魔していただきます。皆に会える日は、朝からウキウキ家も早く出過ぎて車の中で30分位がまんしていることもよくあります。

出逢った頃は、すぐに泣き出し抱っこすると直ぐに眠っていたKくんも、今では凄く背も伸び外遊び中に泣くなんてこともなくなり、チョッピリ悪戯も覚えて元気に園庭で遊んでいます。

「おねえちゃん」と呼んでくれる時には返事に戸惑いますが、園のちびっ子たちは、みんな可愛く毎回連れて帰りにたくなってしまいます。2時間足らずだったので、みんなと接することは出来ませんが、私を優しく幸せな気持ちにさせてくれるちびっ子たちみんなが大好きです。いつもありがとうございます！

あっ！いつも笑顔で出迎えて下さる園長先生や、職員の方々も好きですよ！ありがとうございます。



### 青山保育所

新しい年度が始まりました。3月には25名のお友だちが卒園しましたが、4月には22名のお友だちが入園して、保育園はまた子どもたちの元気な声で賑やかになりました。

2013年度、様々な行事で活躍した子どもたちの様子を紹介します。

#### 発表会

1月に別府市コミュニティセンターで発表会を行いました。今年も昨年と会場が変わり、構成も変更して行い、子どもたちの顔が間近に見られるようにしました。小さい子どもも大きい子もお家の人が見に来ているとあつて、はりきっていた子やお家の人を見つけて「ママ〜」と手を振ったり、様々な様子を見せてくれました。運動会よりも成長した姿にお家の方々も目を細めて見ていました。



#### 豆まき

2月に節分の豆まきを行いました。節分のお話を聞いて、豆まきをする準備



備万端の子どもたちでしたが、今年は色とりどりの鬼が4人もやってきたので、びっくりして泣いたり、保育士の後ろに隠れたりしていました。それでも、頑張つて豆をまきました。最後は5歳児の子どもたちが鬼と綱引きをすることにになり、見事に勝ってくれました。大泣きした子どもたちも節分ランチをぺろりと食べて元気になっていました。

### 保育参観

2月〜3月にかけてクラスごとの保育参観を行いました。お家の方と一緒に活動をしたり、給食を食べたりして過ごしました。前回の保育参観の時よりも出来ることが多くなっていることに、お家の方々も驚かれています。4月からは進学、進級をすることの保育士の話やお家の方々同士の情報交換などありました。保護者の皆



### ひなまつり会

ひな祭り会までに雛人形を飾ったり、自分で雛人形を作ったりして楽しみに待っていた子どもたちでした。当日は、ひな祭りの由来を聞いたり、歌を歌ったり盛りだくさんの催しものでしたが、子どもたちもよく見ていました。ひな祭りランチも良く食べていました。



### お別れ会

3月に退所や卒園するお友だちのお別れ会をしました。この日は、朝からどのクラスにも遊びに行っても良かったので、子どもたちは嬉しそうにクラスを回っていました。またお別れ会では幼稚園や小学校に行くお友だちを紹介し、みんなで祝いしました。小さいお友だちや保育



士たちから見送られてちよっぴり恥ずかしそうでした。みんな元気だね。

### 卒園式

3月29日、卒園式がありました。あいにくの雨でしたが、子どもたちも少し緊張しながらもお家の方と一緒に参加していた、だきました。一人ずつ園長先生より卒園証書をもらう姿は、立派なお兄さん、お姉さんでした。

最後に記念撮影をして担任の先生とお別れをしました。幼稚園や小学校へ行っても、また保育所に遊びに来てね。



### 野口保育所

新しい年度が始まりました。4月、保育所では、新しいクラスや担任・新しいお友だちとの出会いなどが待っています。また新しい年度を毎日楽しく、そして行事なども子どもたちと一緒に過ごしていきたいなと思います。

また、前年度になりますが、2月からの行事の様子をお伝えします。

### まめまき

2月3日は「節分の日」にちなんでまめまきを毎年子どもたちと保育士で行っていましたが、今年度は保護者にも普段の行事の様子を見てもらったり、



一緒に参加してもらいたいと思い、2月に毎年行われる保育参観と豆まきを一緒に行いました。

各クラスで豆まきの歌を歌ったり、お面やマスを作りあげて、その後の豆まきは普段の行事のように全クラス集まり、豆まきの由来がわかりやすいように保育士による劇をみんなで鑑賞してもらいました。

そして待ちにまつた鬼が登場！自分の体の中にある鬼を追い出そうと、子どもたちは真剣に豆を投げたり泣きながら豆を投げたり：保護者の方は何か終始笑顔・笑顔でたくさん笑って、鬼に「うちの子も追いかけて」とリクエスしたりと楽しんでる様子でした。豆まきが終わってからは、みんな歳の数だけ豆を食べ、給食には恵方巻も食べて体の中にある鬼を楽しく美味しく追い払いました。



### 避難訓練

2月12日に避難訓練を行いました。毎月行っている避難訓練ですが、2月は消防署の予防課の方に来園していただき、普段の子どもたちの避難訓練を見ていただいたり、保育士の通報訓練や消火訓練も見てくださいました。



子どもたちや保育士も毎月の避難訓練を真剣に取り組んでいます。消防署の方がいるだけで身が引き締まり、いつも以上に子どもたちも保育士も真剣でした。

避難訓練が終わった後は、消防車を見学させてもらったり、乗せてもらったりして楽しみました。

火事や地震などいつ災害が起きるかわからないので、園で起きた時は子どもたちを守るように、これからも真剣に子どもたちと保育士と一緒に訓練

をしていこうと思いました。



### ひなまつり会

3月3日にひな祭り会をしました。全クラスでお雛様の歌を歌ったり、クラス毎に作ったお雛様の製作を見たリ、給食では年長組が年下の好きな小さいクラスに行き、お雛ランチを食べました。異年齢の子どもたちが一緒に過ごす良い機会となりました。ひなまつり会が終わった後は、5歳児がまた来年会おうね！と優しく大切にお雛様の片づけもしました。



### お別れ遠足

年度の終わりに、一年間一緒に過ごしたおともだちや保育士と一緒に、小さいクラスは近くの公園にお散歩に出かけました。

歌いながら歩き、菜の花やサラサラ流れる小川を見て、昨年4月に入った頃のまだまだ幼かった子どもたちを思い出し、一年間の成長に少し胸が熱くなった保育士たちでした。

4歳・5歳児は卒園に向けての経験として大分中央警察署までバスに乗って社会見学をおこないました。「大きくなったら警察官になりたい」と言う子ども



ももいて、お友だちや保育士とたくさ  
んの思い出が出来た一日でした。



### 卒園式

先日、2013  
年度の野口保育所  
の卒園式が行われ  
ました。  
今年、21名の子  
どもたちが野口保  
育所を巣立って行  
きました。  
それぞれの子ど  
もたちが幼稚園や  
小学校に進学する  
期待と喜びを胸に



元気いっぱい卒園して行きました。  
子どもたちがどこの場所でも元気に  
成長することを願って、応援したいと  
思います。



### 入所式

新しい年度が始まりました。新入園  
児も加わり、心新たにスタートしまし  
た。

4月で8年目を迎えた野口保育所で  
すが、これからも職員一同身を引き締  
め、資質向上を目指し、子どもたちが  
安全で楽しい保育が出来るようにして  
いきたいと思えます。  
今年度共、よろしくお願い致します。

### 賛助会員募集

年会費、一〇千円、但し、何口  
でも、分割可。  
ご連絡いただければ職員が参上  
します。栄光園賛助会事務所は、  
別府市南荘園町3組です。  
賛助会員の皆様には、栄光園の  
広報誌『栄光園だより』を送付  
させていただきます。

## 栄光園のご支援者

栄光園は多くの皆様の継続した温か  
い思いによって支えられてきたことを  
心から感謝いたしております。皆様の  
このような思いは、子どもたちの成長に  
また、働く私たち職員の励みに大変大  
きな力となっていることをいつも嬉し  
く思います。

皆様の上に神様の豊かな祝福があり  
ますようお願いいたしております。

【2014年1月1日より2014年3月31日まで】  
(今回は掲載期間が異なっております)

### 2014年 賛助金

- 愛隣幼稚園様 大分市
- 大分教会様 大分市
- 小郷 晶子様 別府市
- 木村 洋子様 大分市
- (南)コーワ精起様 東京都
- 佐々木雅明様 大分市
- 佐藤 照子様 別府市
- 袖淵三枝子様 中津市
- 谷本よう子様 宇佐市
- 田原 明紀様 白杵市
- 永尾 福康様 別府市
- 福岡中部教会様 福岡市
- 水谷 愛子様 中津市
- 門司大里教会様 北九州市
- 矢永 尚土様 別府市
- 山口産業(株)様 別府市
- 渡辺 順子様 中津市

### 2014年 一般寄付

- 河野 国弘様 大分市

## ご支援ありがとうございます。

- 匿名 別府市
- 匿名 別府市
- 匿名 別府市
- 別府教会様 別府市
- 別府不老町教会様 別府市
- 豊和銀行従業員組合様 大分市
- 三石 太江様 宇佐市
- 南石垣支援学校吉田・福地・糸園先生 別府市

### 2014年 特別物品寄付

- カレンダー等 九州アフリカライオン・サファリ(株)様
- マスク・歯ブラシ等 植田晴明様
- タオル・石鹸等 緒方町女性教職員退現協議会様
- お菓子等 袖淵三枝子様
- お菓子多量 ダイヤモンドやまなみ店様
- 衣類・洗剤・文具等 中村里子様
- 学校用品・花の苗等 別府ロータリークラブ様
- 野菜・果物等 宮崎次枝様

### 2014年 改築寄付

- 山川信一郎・百合子様 中津市
- 別府不老町教会様 別府市

### 2014年 招待・奉仕

- 小・中学生学習指導 安東秀典様
- 小・中学生学習指導 井上せつ子様
- 絵本読み聞かせ等 お話ボランティア様
- 児童のヘアークット Kヘア様

# ジャックと桜の木

児童養護施設 施設長 江口 敏一

この季節の別府は街中から山桜まで含めて、桜の名所めぐりに事欠かない。栄光園のグラウンドも40年前の先達の先見の明の恩恵から、毎年のように、近隣にとつても有名・豪華な桜の花園となる。風に舞う花びらを追いつつ、昨年9月に来訪されたアメリカ人ジャック・デッドワイルーさんのことを思い出していた。栄光園だより第93号でお知らせしたように、ジャックさんは日本女性と黒人男性の間に生まれた混血児で、生後7か月で栄光園に生まれ、7歳の時に養子縁組で渡米された方である。養父を看取り、自由の身になって初めて自分のルーツを訪ねる決意をし別府に来られたが、全く手がかりがつかめないままアメリカへ帰国せざるを得ない羽目になった。しかし、「キヤサリン」「ウエスト」のホーム名から、往時の宣教師や別府駐屯地の総司令官を思い出され、ホームで生活している子どもたちとも会い、楽しい食事を共にした喜びから、栄光園を訪問した証にとソメイヨシノ



の桜の苗木をプレゼントされた。私たちは「ジャックと豆の木」のとえから、この苗木が40年後に満開の花をつけた大木に育つて、天の神様に彼の思いが届くように「ジャックと桜の木」と名付けた。年度が替わり、新たな思いで満開の桜の花園を巡りつつ、ウエストホームの一角にある「ジャックと桜の木」の前に来て、驚いた。植樹後半年しか経ていないにもかかわらず、清楚で素敵な花びら3つが可憐に私のほうを向いて咲いていた。彼の思いと神様のお計らいを感激のうちに感じた一瞬であった。

栄光園を創られたのも、子どもたちが集められたのも、働く私たちが集められたのも、そして、それを支えてくださる多くの地域の方々、ボランティアの皆様、行政・教育機関・医療機関の皆様が関わっていただけているのも神様の愛のお働きであり、神様に栄光を帰すべき園であることを思わされた時でもあった。

栄光園を創られたのも、子どもたちが集められたのも、働く私たちが集められたのも、そして、それを支えてくださる多くの地域の方々、ボランティアの皆様、行政・教育機関・医療機関の皆様が関わっていただけているのも神様の愛のお働きであり、神様に栄光を帰すべき園であることを思わされた時でもあった。

栄光園を創られたのも、子どもたちが集められたのも、働く私たちが集められたのも、そして、それを支えてくださる多くの地域の方々、ボランティアの皆様、行政・教育機関・医療機関の皆様が関わっていただけているのも神様の愛のお働きであり、神様に栄光を帰すべき園であることを思わされた時でもあった。

## 社会福祉法人栄光園

2013年度 1/3月 退職職員  
2014年度 新規採用職員

### 退職

- 1月31日付 乳児院 山本 聖子(看護師)
- 3月31日付 児童養護施設 京野 藤雄(児童指導員 定年)
- 永井 由季(保育士)
- 宇野 弘子(調理員等)

- 乳児院 日吉 智美(保育士)
- 江藤 薫(保育士)
- 大野智恵美(調理員等)
- 首藤むつよ(保育補助)

### 異動

- 4月1日付 乳児院 本庄公多子(保育主任)
- \*青山保育所より異動
- 西山 美映(保育士)
- \*乳児院より異動

### 採用

- 2月1日付 乳児院 井上 蘭(保育士)
- 4月1日付 児童養護施設 今村 聡真(児童指導員)
- 橋本 紘治(児童指導員)
- 牧 卓史(保育士)



### 苦情等相談窓口

\*法人および各施設での苦情等は下記の連絡先へご相談ください。  
tel.0977-23-2827  
fax.0977-23-7520  
mail eikoen@live.jp

### 編集後記

4月は栄光園にとつて満開の桜に祝福されて巣立ちと進学を感謝する季節です。今の桜は、40年前に植えられた桜ですが、昨秋アメリカから里帰りされたジャックさんが記念に植樹された「ジャックと桜の木」の桜も三ツ星のごとく三つ開花しました。また、市議会議員の方からも桜の苗木を寄贈され、大風などで倒され、抜けている部分の桜として植えさせて頂きました。40年後がまた楽しみです。(敏)



## ご案内 グレースホームの集い



「栄光園支援者の集い」は、昨年度より「グレースホームの集い」と改称し、栄光園を巣立った卒園生の参加と合流することになりました。日程は、参加しやすいようにと8月15日の週の土曜日としました。

本年度は、8月16日(土)12時より、子どもたちとの会食から始まります。食後のミニコンサート・施設見学も予定しております。参加費は無料で、お志等は固く辞退させていただきます。ぜひ、お気軽にお立ち寄りいただければありがたいです。